

# 中学校C **心を育て、思考力・判断力の育成に向けた実践**

市原 剛志（長生）  
白井 純子（君津）

大野 雅友（夷隅）  
関口 智史（木更津・袖ヶ浦）

笹子 竜侍（安房）  
庄村 裕介（市原）

## 1 はじめに

中学校Cグループでは、どのようにしたら、中学生が自ら進んで課題解決を行えるかと考えたとき、思考力・判断力という点に着目した。学びに向かう生徒の育成の実現のためには、自ら運動課題を見つけ出し、それを解決していく主体的活動学習を取り入れることが有効であると考え本研究主題を設定した。

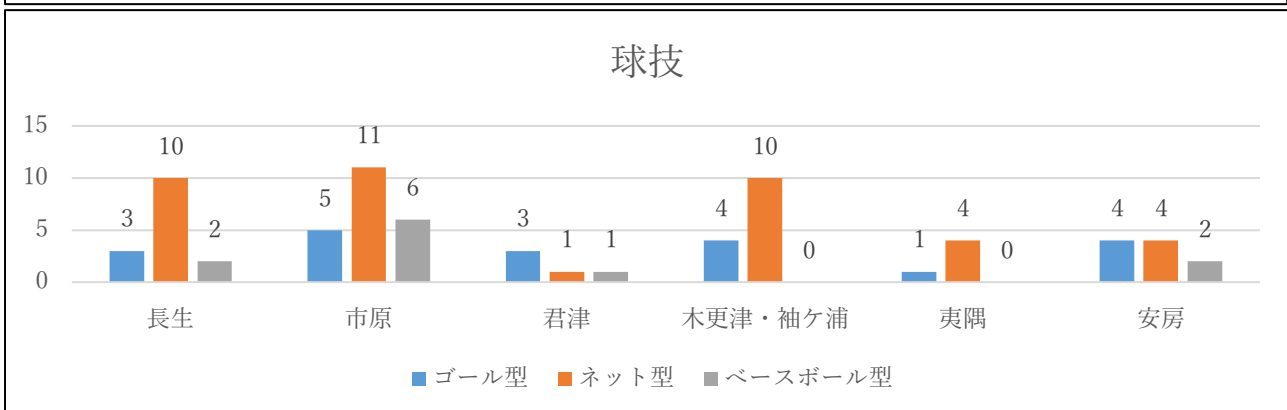
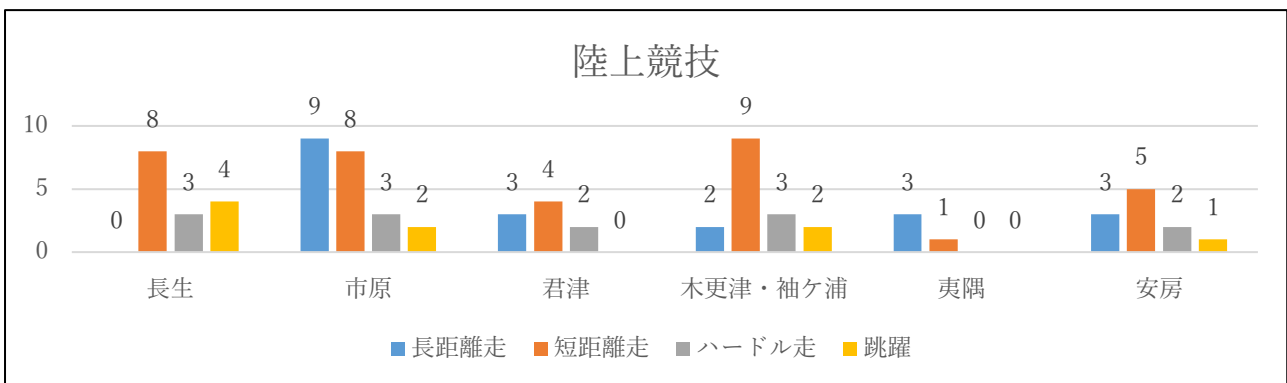
今回は、実践している種目（陸上、球技、武道・ダンス、器械運動）を、4領域に限定し、各支部で取り組んでいること、また、体を鍛えつつ、心をどのように育成しているのか取り組んでいる実践例を紹介したい。

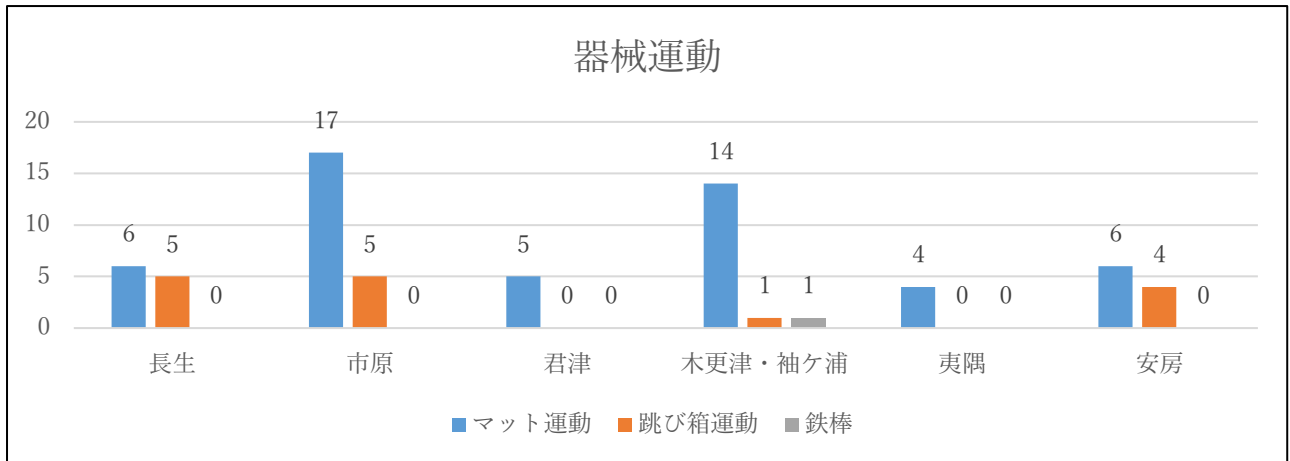
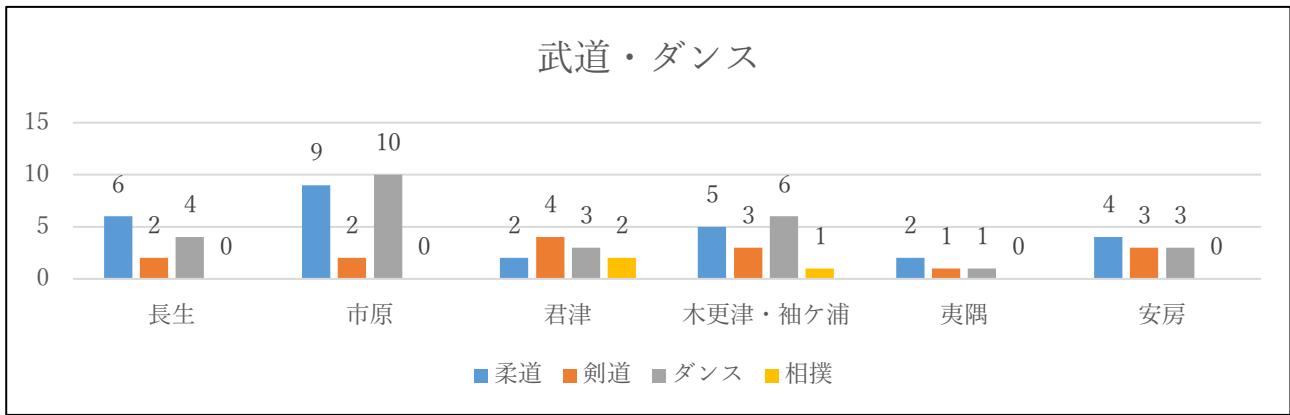
### アンケート調査

- (1) 対象 長生、夷隅、安房、君津、木更津・袖ヶ浦、市原地区の中学校体育主任
- (2) 実施 平成30年8月～11月
- (3) 内容 ①心を伸ばすために実践している事  
②思考力・判断力を伸ばすために実践している事  
③実践している種目（陸上競技、球技、武道・ダンス、器械運動）を4領域の限定で質問

## 2 実践例（アンケート結果）

- (1) アンケートに回答のあった種目





#### 各項目での結果

- (陸上競技) 記録を計り、向上させるためには何が必要か、また、どんな練習方法にすれば伸びるのか話し合う時間を設ける学校が多かった。
- (球 技) メンバーやペアを編成し相手の事を考える。また、作戦会議を行い話し合いを行うことでチーム一丸となって取り組ませていた。同じ目標に向かって連携させることで仲間意識が高まった。
- (武道・ダンス) 武道に関しては、礼儀作法が相手の事を考えるということに繋がっており、礼儀作法を徹底させるという内容がほとんどであった。審判を自分で行わせることで、自分の判定に責任を持たせるということも行わせていた。
- (器械運動) 補助をしてアドバイスをすることで、技を理解し相手の事を考えることに繋がっていた。また、自分の力量に合わせて演技する技を考えさせていた。

#### (2) 心を伸ばすために・思考力・判断力を育成するために実践していること

様々な種目で、先生方が意識して生徒に考えさせているということが思考力・判断力の育成に繋がっていることがわかった。手立ではそれぞれの学校によって違うが、共通していることは「考える時間を設ける」ということであった。そのことを行うことで、仲間やチームのことを考えることにつながり、相手を思いやるという良い効果が生まれていた。

### (3) 各支部での実践例

#### 夷隅支部

心を伸ばすために

バレーボールでは、チームワークの向上に役立つホットボイスを積極的に使うようにアドバイスして個人の学習カードに記入させたり、柔道・剣道の武道では、礼儀作法の意味を理解させた上で相手に感謝の気持ちを持って練習させる取り組みをさせた。

思考・判断力を伸ばすために

陸上競技で、学習カードを活用して練習の仕方を小グループで工夫して取り組んだり、目標タイムを設定して練習・記録取りをする実践が見られた。また、武道の技の練習で、技を教える過程で考えさせ、技の習得を工夫する取り組みを行わせた。

#### 長生支部

心を伸ばすために

陸上競技では、得意不得意の混合チームを作り仲間を援助しながら支えさせた。球技では、ミスをしたら温かい励ましの言葉かけを行わせるなど、スモールティーチャー学習を行った。ダンスでは、毎時発表を行い良かった点を伝えることで相手を認める心を育てた。グループで援助し合い課題を伝えあうことで、できた時の喜びを味わわせた。

思考・判断力を伸ばすために

陸上競技では、ペアを作り相手がどうしたら成長するのか考えさせた。武道では、生徒審判を行わせ公平に判断できる力を身に付ける場面を設定した。球技では、次の動作を予測させるために、声かけを行わせたり、ルールを工夫したりすることで、技能を意識させることや作戦を生かせるようにした。器械運動では、採点競争でもあるので、どのようなところを出来映えとしているのか考える時間を設定した。

#### 安房支部

心を伸ばすために

バレーボールでは、できた時の喜びを共感できる雰囲気を意識して考えさせた。また、ペアを変え自己の課題に気づくようお互いに教え合いをした。ダンスでは、声や表情を意識させ伝える表現を意識させた。マット運動では、相互評価を行うことや補助をすると共にアドバイスをさせた。補助することや課題を伝え仲間が課題を達成したことでお互いの喜びを分かち合わせた。

思考・判断力を伸ばすために

バレーボールでは、作戦ボードで攻撃の種類を考え話し合う場面を設定させた。武道においては、自分で審判を行わせ、判定に責任を持たせた。練習方法はグループで考えさせた。マット運動では、お互いの演技を見て評価することや、ICTを活用し自分の演技の確認を行わせた。自分の力量に合わせて技を組み合わせ演技させた。

#### 市原

心を伸ばすために

陸上競技や球技ではプラスな声掛けを積極的に発言するようにし、お互いを高め合う活動にした。器械運動では、評価カードを使い、お互いに評価し合うことで認め信頼しあえる心を養った。柔道・剣道の武道では、相手が痛い思いまでして練習をしていることを考えさせながらお互いを思いやる心を育てた。

思考・判断力を伸ばすために

陸上競技では、答えではなくヒントを提供し活動させた。球技でも発問の答えをキーワードとして授業に取り入れることで何をすれば良いか判断し取り組ませた。どの領域でも、同じ技を何度も見せて、コツやポイントを自分で考えさせた。ダンスでは一人一人のアイディアを一つは創作の中に取り入れることや、教え合う場面を設定した。

#### 木更津・袖ヶ浦支部

心を伸ばすために

陸上競技では、出来映えを話し合うことや、ゴールしたらハイタッチを行わせた。武道では、礼儀作法はもちろんのこと、力量差を常に考えさせ取り組ませた。球技では、個人のミスを責めるのではなく、課題をメンバーと一緒に考えること「ドンマイ」等の声かけを行った。マット運動ではグループを作り補助をお互いに行わせた。相手と関わることを意図したことで会話する姿が多くなった。

思考・判断力を伸ばすために

陸上競技では、タイムを毎時計測しなぜ速く・遅くなったのか考える時間をとった。武道では、技を教えるのではなく、どうすれば攻撃や抑え込みができるのか考えさせた。球技に関しては記録カードを作成し、予測を行わせた。技能のやり方を教えるだけでなく、どうすればできるのかを考えさせたことで、体の動かし方を工夫させた。

#### 君津支部

心を伸ばすために

陸上競技では、レース後にハイタッチや応援することを意識させた。球技では、達成感や楽しさを伝えるために、仲間同士で協力する場面を多く設定した。ダンスでは、1つの事を皆で創り上げることで協調性の育成を図った。器械運動では、初めてできた技は報告させ、皆の前で発表させ拍手や声かけを行わせた。

思考・判断力を伸ばすために

陸上競技で、個人・チームカードを用いてチーム内で相互評価した。グラフなども活用した。球技では、攻撃パターンを教え作戦会議を行わせ話し合いの場を多く設定した。ダンスではカメラも自分たち撮影させ、ポーズや見栄えを試行錯誤させた。マット運動では、技を見合う観点を明確にさせ教え合う場を設定し、お互いに良い所を言い合わせた。教える過程で考えさせ、技の習得を工夫する取り組みを行わせた。

### 3 おわりに

各支部の実践例を通して、意図してグループ編成や、声かけを行うことは多くの先生方が実践していることがわかった。

思考力・判断力を伸ばすために、様々な学校で授業ノートや授業ファイルを活用し、授業の始まりには「本時の目標」を、終了間際には「反省」を記入する時間が授業の中に取り組みされている。身体だけでなく、頭脳も使い考えさせることが狙いである。

以前は目標を記入する際、本時の目標が「～することができる」「～することができるようになる」といったように、達成することのみが目標となっていたが、最近では「～ができるようになるにはどうしたらよいのだろうか」等といった、考えさせる目標が増えてきている。別の方法では、既習技能を確認後、次の目標を生徒達に考えさせ、その意見を本時の目標にしている学校もある。自ら運動課題を見つけ出し解決に臨ませているスタイルになっている。

今回紹介した実践例をまとめると、考える時間を設定することや、仲間と話すことで自分やチームの課題発見に繋がり、主体的な取り組みになっていた。また、アドバイスをするために、仲間の課題を発見することや、活動メンバーを変更することで自然と相手のことを考えることに繋がったと考えられる。